

商店街による地域活性化

～しもきた商店街とおかげ横丁～

内山・河越・五幣・高嶋・高橋

地域活性化の定義

- 地域の人々が交流することによってコミュニティが形成されること
- 地域ならではの魅力によって観光客が増加すること

本研究について

商店街が賑わう街は地域として活力があると考えた。

商店街の現状を調査。

地域活性化に貢献した商店街を訪問。

→地域活性化の条件や成果は何か？



商店街の現状・背景

- ショッピングセンターやコンビニエンスストアの増加
- モータリゼーションの進展
- 近年、ネットショッピングが普及

→ シャッター街の増加



①しもきた商店街

しもきた商店街とは

- 6つの商店街のうちの一つ。
- 小田急線・京王井の頭線下北沢駅北口を中心に広がるエリア。
- お洒落なカフェや古着、雑貨を扱うお店が並ぶ。



しもきた商店街

しもきた商店街の特色

- 芸術活動やアートに関係するビジネスに溢れる地域性。
- 区の助成金に頼らない → 比較的自由的な活動が可能。
- インバウンド客の増加 → 一部では免税店も。

しもきた商店街の取り組み例

再開発でフェンスが多くイメージが悪い



しかしフェンスの中は区の所有物



しもきた商店街が管理を担うことで使用を許可



下北沢大学等の取り組みにより**イメージ改善**

下北沢大学

ライブハウスや劇場の無いしもきた商店街。アーティストのネットワークを活かし、多様な文化と新たなブランドの確立のためのプロジェクト用の場として商店街振興組合により2010年夏に「下北沢大学」を設立。

→ **すべての人が参画できるプラットフォームに。**

現状課題

- 地域周辺の住民は高齢者が多く、また住民の使えるお店が少ない。
- インフラが十分に整っていない。
- ラクガキの多発。
- イベントに参加する若年層が少ない。



②おかげ横丁

おかげ横丁

- 平成5年に開業
- 三重県伊勢市にある商店街
- 伊勢神宮の内宮門前町であるおはらい町が前身
- 飲食・工芸店など57店舗展開



(伊勢名物 赤福餅)

設立の背景

- ・ 内宮門前町の衰退：モータリゼーションの発達、娯楽の多様化
 - 「日本一滞在時間の短い観光地」
 - 「日本初のシャッター街」
- 株式会社赤福を中心に整備に取り組む



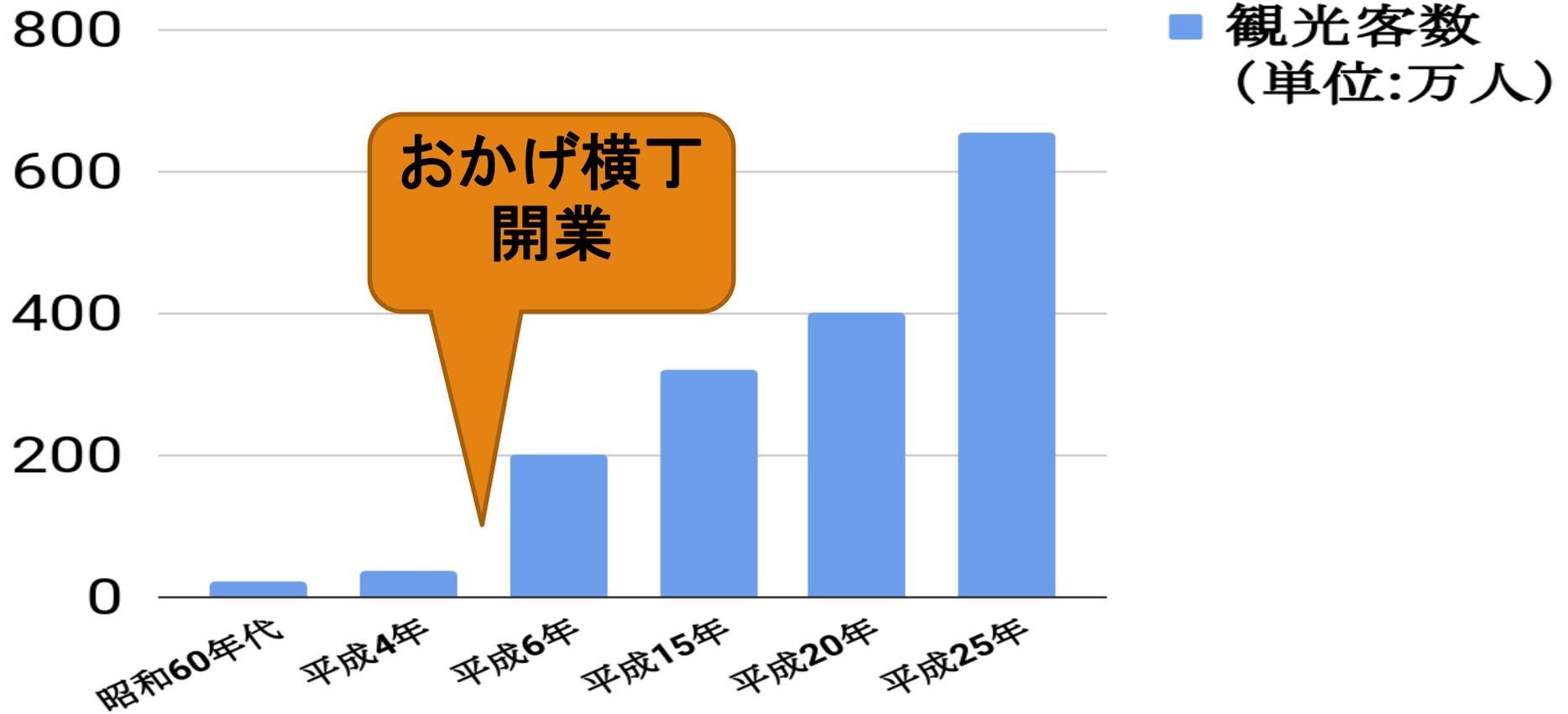
おかげ横丁の特徴

昭和61年 土地計画コンサルタント
派遣

- 自由に歩ける開放的な町
- 江戸時代から明治初期の伊勢路の街並みを再現
- 老舗の味・名産品・歴史・風習・人情が一緒に体感できる



来客数の推移



まとめ

	地域のコミュニティ	観光客
しもきた商店街	△:プラットフォームが形成されているが、周辺住民は招致できていない。	○:外部からのお客様が多い。
おかげ横丁	△:地域住民の交流は生まれてないが、労働者は地元の人が多い。	○:日本人向けに特化し、観光客が増加

商店街による地域活性化の条件

- 商店街にしっかりとしたコンセプトがあること。
- ターゲットセグメントを確立すること。
- 地域住民を巻き込むこと。

協力/参照

- しもきた商店街振興組合 副理事長 小清水克典 様(2019年5月24日 訪問)
- しもきた商店街HP <http://www.shimokita-info.com/>
- 下北沢大学HP <https://www.shimokita-univ.com/>
- おかげ横丁 広報 五十嵐寛 様 (2019年9月18日訪問)
- おかげ横丁HP <https://www.okageyokocho.co.jp>

ご清聴ありがとうございました